

平成 23 年 5 月 16 日

各 位

会社名 株式会社 オプトロム
代表者名 代表取締役社長 三浦 一博
(コード番号: 7824 名証セントレックス)
問合せ先 取締役管理部部長 佐藤 政治
(電話番号 022 - 392 - 3711)

「E・COOL」の省エネ消費電力が震災の停電時に実力を発揮 ～宮城県蔵王町役場 自家発電装置で100%点灯の安心感～

昭和 30 年、宮村と円田村の合併により誕生した宮城県の蔵王町(ざおうまち)は、東北の霊峰蔵王連峰の東麓、宮城県の南西部に位置し、町域の約 6 割が山林・原野で占められています。町の中央を松川が貫流し、美しい渓谷の景観を作り出しており、蔵王連峰に連なる高原地帯には貴重な野鳥などが生息し、自然の宝庫となっています。町の東部は良好な水田地帯となっていて、丘陵地を利用した果樹栽培も県下の生産量を誇っています。また高原育ちの新鮮な牛乳から作られるチーズなどの乳製品は、品質の良さから全国的に人気があります。観光面では県内有数の名湯遠刈田温泉を有し、毎年数多くの観光客や湯治客が訪れています。



4,229世帯、1万3千人強(3月31日現在)の町民が利用する蔵王町役場では、省エネ・効率的なエコを熟慮された結果、当社「E・COOL」の採用を決定。2010年8月に約560本を導入設置、電気代の軽減等に努めていただいております。CCFL蛍光管の目に優しい光は事務職員の方々からも好評とお聞きしておりました。

今回 3月11日のマグニチュード9.0という、観測史上世界最大規模の東北関東大震災では、町内でも震度6強を観測し、家屋全壊や屋根・窓ガラス損壊等、多くの被害もあり、その影響で上水道断水や、一部の地区を除いて大規模な停電が数日間も続きました。

蔵王町役場では急遽自家発電装置を設置、電力不足の影響も受けず、省電力仕様の「E・COOL」は全数点灯、明るいフロアで町民の不安を必要にあおることもなく、おかげさまで地震直後の対応も適切に行えました、との「消費電力効果」実感のお言葉を頂戴しました。仙台を拠点とする企業として「E・COOL」が安心のお役に立てたことはとても喜ばしいことです。

蔵王町総務課長さまからも大変嬉しいコメントをいただきましたので、下記にお知らせ申し上げます。「今でも役場の方では、被害の大きい地域への応援や域内の下水道施設(マンホール等)の被害に因る道路封鎖の対応に追われています。今回の自家発電装置の導入で、「E・COOL」を設置した本庁舎の照明の消費電力が全体の1/4しか無く、改めて導入を推進した立場としても有り難い限りである。また現在は明るさが(照度)十分なので間引いて使用しているぐらいで、より一層の節電効果を発揮して貰っています。」

「E・COOL」は一般蛍光灯と同等の明るさながら、マイナス40%の消費電力を実現しており、本製品の導入を通じて、これからも節電への貢献をしていきたいと考えております。

以上

